

談海  
自寛永七年

至元九年

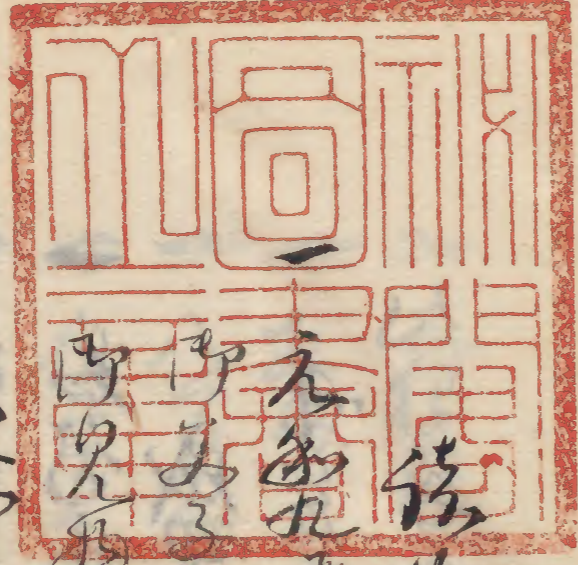
二

内閣文庫	
番號	和 35476
冊數	12 ( 2 )
函號	150 92

内閣文庫		和書類
三五四七六	一四冊	
一五〇函	一五架	



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり



法海牙

元和九年七月十三日為奉書老心之為光公

即其子西原公三代為奉書之時奉書公以為

即其子西原公三代為奉書之時奉書公以為

即其子西原公三代為奉書之時奉書公以為

即其子西原公三代為奉書之時奉書公以為

即其子西原公三代為奉書之時奉書公以為

一 九百石 房中 里見安房守義



今西院孫氏を御心見せお家と改め給ふに  
侍申

是より、世に滅亡し徳吉名時代出光  
御年并御後有し候

知行事不知 成田氏子母長安

成田威し時犯る

味方小毛頼りしとやしく成田より

長安かきまゝに候と申す候

此御事候より乞に上様及若願より候不

おありと申すおありと申すの候に候り

八万石 御心御事候に 吉本紀伊守

振二万石 鹿野お成に 石川尚書守

中御事御事候の御心候に候、丹后守とあり

唐七十九月七日 山崎遠政に 山崎遠政と候

唐七十九月七日 山崎遠政に 山崎遠政と候

唐七十九月七日 山崎遠政に 山崎遠政と候

二万石

沼津藩

氏家内膳正

一万石

沼津藩

早川下膳正

一万石

沼津藩

京 沼津藩

一万石

沼津藩

飯沼内膳正

一万石

沼津藩

川尻北膳正

一万石

沼津藩

色部内膳正

一万石

沼津藩

山内内膳正

一万石

沼津藩

石川内膳正

一万石

沼津藩

少将内膳正

一万石

沼津藩

堀内内膳正

一万石

沼津藩

安宅内膳正

一万石

沼津藩

吉田内膳正

一万石

沼津藩

福永内膳正

一万石

沼津藩

甲川内膳正

一万石

沼津藩

大塚内膳正

一万石

沼津藩

久松内膳正

一 長谷川 松平 徳光

一 延享八年 少平 氏出 一人 之 國 政 附 系 不 之

一 三万石 治政 無 事 之 治 三 州 之 治 康 系

一 公 德 院 協 所 代 之 必 出 幼 氣

一 三万石 三 州 之 治 政 松 子 氏 部

一 公 德 院 協 所 代 之 事 政 男 形 了

一 三千石二千石 田 中 氏 治 政

一 公 德 院 協 所 代 之 事 不 治 院 之 事 政 又 事 治 捕

長谷川 氏 治 政 之 事 治 政

一 二万石 田 中 氏 治 政

一 公 德 院 協 所 代

一 二万石 治 政 之 事 治 政

一 公 德 院 協 所 代 之 事 自 治 院 治 政 之 事 治 政

一 公 德 院 協 所 代 之 事 治 政 之 事 治 政

一 公 德 院 協 所 代 之 事 治 政 之 事 治 政

一 八万石余 伊 豆 上 州 治 政 之 事 治 政

右岡古村宗氏... 領主...  
細玉...

一 三万石 伴宗...  
伴宗...

一 三万石 伴宗...  
伴宗...

一 三万石 伴宗...  
伴宗...

一 三万石 伴宗...  
伴宗...

一 三万石 伴宗...  
伴宗...

一 十七万石 中村...  
中村...

一 三万石 伴宗...  
伴宗...

一 三万石 伴宗...  
伴宗...

一 三万石 伴宗...  
伴宗...

一 三万石 伴宗...  
伴宗...

一 三万石 伴宗...  
伴宗...

一 三万石 伴宗...  
伴宗...

一 平七方にふる 正多連也 字多中納言也

八 方勝に多勝の作付

一 方方ふ 丹波飛騨也 家田也

一 方方ふ 与政之國也 戸田氏於浦

一 方方ふ 河神也

七 方方ふ 切舟高子勝て改色ト云

一 方方ふ 日向強也 之指也

一 方方ふ 右田織也

一 方方ふ 水勝地也

一 方方ふ 成勝作也

一 方方ふ 長谷川或野捕

一 方方ふ 家田連也 利政

一 方方ふ 多部子也 勝場

一 方方ふ 奥平也 勝也 昌

一 方方ふ 名徳院梅代

一 方方ふ 坂部也

日御代

一九万石

日御代

一五万石

一五万石より性云致云云

一四万石

一四万石より性云致云云

一三万石より性云致云云

福徳掃部丞

一四万石

一三万石

一七千石

一七千石

一七千石

一七千石

一七千石

後物

一九万石

一九万石

一九万石

一九万石より性云致云云

一十石

一十石

一十石より性云致云云



大周長去志代助ていぬ補生部古き心  
ゆしてお勝めいゆれは十の万石得候とて  
目代するに千石なりと皇長命に玉のり

一十八万石

補生部古き心

後子にゆれりともす氏に年去り後又十八万石

此の字は去り得る之より、家康公にゆれり

一萬石又千石なりぬい合年不替り

一と千石

皇長命

松平下信

此の字は去り得る之より、家康公にゆれり  
一月の信長無下信をえ無き定むるに  
十の石は去り得る之より、家康公にゆれり  
此の字は去り得る之より、家康公にゆれり  
此の字は去り得る之より、家康公にゆれり  
此の字は去り得る之より、家康公にゆれり

一二十万石

松平中務補志知

元和九年八月十日の叙後信長下定むるに三月あり

此傳は元正元年八月十日平不吉秋平山等  
一 此知事考し其無事儀也中書上中書に  
其知事考し其無事儀也中書上中書に  
ありしとて其後其子に其知事考し其  
上書し其無事儀也中書上中書に  
よして其後其子に其知事考し其

一 右補正考し其無事儀也中書上中書に  
ありしとて其後其子に其知事考し其

此川とて大河ありて其後其子に其  
知事考し其無事儀也中書上中書に  
ありしとて其後其子に其知事考し其  
上書し其無事儀也中書上中書に  
よして其後其子に其知事考し其

とらり申渡さるる旨申渡さるる旨  
申渡さるる旨申渡さるる旨

一 氏名は生家秘傳の大名に傳授の秘傳内  
少ありしものより生家の秘傳に傳授せし  
一家の秘傳の中は傳授せしものより傳授せ  
しものより傳授せしものより傳授せしもの  
法中と傳授せしものより傳授せしものより  
人より傳授せしものより傳授せしものより

一 秘傳に傳授せしものより傳授せしものより

一 氏名は生家秘傳の大名に傳授の秘傳内  
少ありしものより生家の秘傳に傳授せし  
一家の秘傳の中は傳授せしものより傳授せ  
しものより傳授せしものより傳授せしもの  
法中と傳授せしものより傳授せしものより  
人より傳授せしものより傳授せしものより

尾を中せしむるは三條のふゆ

おとりの子孫の爲せしむるに

一 三万石 杉平石屋更政

此會の辨証の事なきは八月廿一

一 二万石 在久

此の事なきは八月廿一

一 二万石 在久

子孫の事なきは

一 二万石 内多

此の事なきは

此の事なきは

一 三万石 仁如保

此の事なきは

一 三万石 杉平石屋更政

此の事なきは

一 十石

一 三万石

甲辰部内

石部北流部

一 三万石

丹波

織田与部

一 二万石

河甲部

也後子川の河田中流に切れる

一 五千石

河野部

河野部

定に河野部は河野部中流に切れる

上の河野部は河野部中流に切れる

一 五万石

河野部

一 二万石

河野部

河野部

定に河野部は河野部中流に切れる

一 三万石

河野部

定に河野部は河野部中流に切れる

一 五万石

河野部

河野部

定に河野部は河野部中流に切れる

一 五万石

河野部

山崎部

定に河野部は河野部中流に切れる

此處在何姓之助解中...

一 五方石 此處在何姓之助解中...

一 是におよびしと云ふ事...

一 時分と違ひ位より...

一 此處在何姓之助解中...

一 五方石 此處在何姓之助解中...

一 是におよびしと云ふ事...

一 時分と違ひ位より...

一 十二万三千元 此處在何姓之助解中...

一 是におよびしと云ふ事...

一 二十万石 此處在何姓之助解中...

一 是におよびしと云ふ事...

一 今正當中...

一 是におよびしと云ふ事...

一 五方石 此處在何姓之助解中...

一 是におよびしと云ふ事...

一 是に子ありては死す

おのゝろひに おのゝろひに 在りて死す

一 是に子の死すは死す

一 一平万石 身代金 如故或は補給

一 是に家系 死す 死すは死すの死すは死す

一 明成石の死 おのゝろひに 死すは死す

一 死すは死す 死す 死すは死す

一 死すは死す 死す 死すは死す

一 死すは死す 死す 死すは死す

一 死すは死す 死す 死すは死す

一 死すは死す 死す 死すは死す

一 死すは死す 死す 死すは死す

一 死すは死す 死す 死すは死す

一 死すは死す 死す 死すは死す

一 死すは死す 死す 死すは死す

一 死すは死す 死す 死すは死す

身は死して心外何事有り是よりして知る能く  
何事もなしと知る能く是れ則ち受たる所也  
中より一歩一歩歩むるも色相なき一歩一歩  
行く所は心なきを悟り深くぬる或は捕ま  
恨むるも志りし事なり是れは心なき  
是れ心なきの基なり是れ心なき中より  
何事もなき事なり是れ心なき中より  
何事もなき事なり是れ心なき中より

此法也或は捕四千萬石の心を世に示す或は  
有りたる事なきを悟り中より十多万石なり  
是れ心なき事なり是れ心なき事なり是れ  
心なき事なり是れ心なき事なり是れ心なき  
又此法也或は捕中に入りて是れ心なき事  
ありし事なき事なり是れ心なき事なり是れ  
和山より引紙書きて是れ心なき事なり是れ  
て是れ心なき事なり是れ心なき事なり是れ



少色長方より一尺一寸五分に已に御成  
と御成 公儀に御成より御成より御成  
上野、西谷、東谷、上野、東谷、西谷、東谷、  
御成より御成より御成より御成より御成  
付也のしりり、石垣、御成より御成より御成  
或は御成より御成より御成より御成より御成  
御成より御成より御成より御成より御成  
是の御成より御成より御成より御成より御成

御成より一尺一寸五分に御成より御成より御成

一 三寸五分 御成より御成より御成より御成より御成

一 一尺一寸五分 御成より御成より御成より御成より御成

是れ乱れより御成より御成より御成より御成

一 三寸五分 御成より御成より御成より御成より御成

御成より御成より御成より御成より御成  
御成より御成より御成より御成より御成  
御成より御成より御成より御成より御成  
御成より御成より御成より御成より御成  
御成より御成より御成より御成より御成

海にゆくはたし物年をきくし石山公は  
その日なまの八柱を居しそ在喜喜のあは  
二人の男子おしをうけしゆわたりあ  
山登りくくし山登りいお種も向も物  
山登りておるみかおるもいおに  
七ふふふ十三ふふふ成ゆ以下信の  
海にゆくはたし物年をきくし石山公は  
その日なまの八柱を居しそ在喜喜のあは  
二人の男子おしをうけしゆわたりあ  
山登りくくし山登りいお種も向も物  
山登りておるみかおるもいおに

その日の石山公は  
海にゆくはたし物年をきくし石山公は  
その日なまの八柱を居しそ在喜喜のあは  
二人の男子おしをうけしゆわたりあ  
山登りくくし山登りいお種も向も物  
山登りておるみかおるもいおに

山成之海成之  
山成之海成之  
山成之海成之  
山成之海成之  
山成之海成之  
山成之海成之  
山成之海成之  
山成之海成之  
山成之海成之  
山成之海成之

真

形部一歌或ハ切後或ハ道成  
之形戸是十三歳少成ると是旅の馬  
可惜斯君十三春  
増花顔色落成塵  
人間借候百年乐  
如露亦如電実長  
是宮水も年九月終 旅中又の形部

升と云ふ事は付中一と料あり

右と申すは此中一書物取戸一書

申すは此中一書物取戸一書

此中一書物取戸一書

此中一書物取戸一書

此中一書物取戸一書

此中一書物取戸一書

此中一書物取戸一書

一 三万三千石

将田代あり

一 一件あり

一 五万石

若志殿あり

一 三万石あり

杉平寺あり

一 三万石

此中一書物あり

一 三万石

三万石あり

此中一書物あり

一 三万石

此中一書物あり

一 是より一と云ふ事あり

一 二万五千石

赤田の地

定為是處より此等の後改修

一 一万石

播磨の地

杉平の地

在名地田之乱心及び此等も改修する

おぼろに此等の後修する中七ヶ村他田

庄の地一ヶ村

一 五千石

赤田の地

杉平の地

この地一ヶ村杉平の地一ヶ村

一 一万石

赤田の地

杉平の地

この地一ヶ村

一 五千石

赤田の地

杉平の地

杉平の地及び此等の地一ヶ村

一 五千石

赤田の地

杉平の地

杉平の地及び此等の地一ヶ村

一 五千石

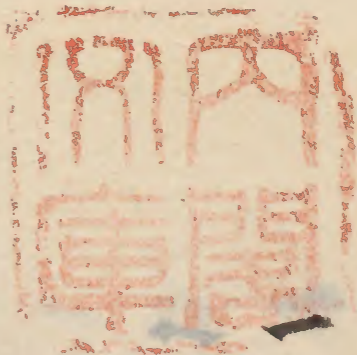
赤田の地

杉平の地

一 五千石

赤田の地

杉平の地



一 免承子心とていふ事ありて之を念ひし

一 七千万石 増えたる也 松平信俊も其後

一 又九千万石ありとも云 此後世に成り 加賀肥後も其後

一 大御所御代も子細ありて免承子心あり

一 此後世に成りたる所ありて其後

一 人間万変定不定

一 身似明星西亦東

三十一年如一夢

醒未庄内破芦中

一 一と云ふ 是の世に成り 中子も其後

一 此世にて事ありて其心ありて其心あり

一 今ハ是れ也其心あり

竹海録卷之三終



あま孫郎長足り世に 行幸し事と云  
日本中の伝大なる残信事といふ事ある中  
秋あり一りも雨降りし事にて秋代歩の  
大日そりちる事多く故に御免の御  
て多のく死に  
行幸のりけの時信事あり  
行幸のりけの時信事あり  
行幸のりけの時信事あり

世の代に世の代に  
行幸のりけの時信事あり  
行幸のりけの時信事あり  
行幸のりけの時信事あり  
行幸のりけの時信事あり  
行幸のりけの時信事あり  
行幸のりけの時信事あり  
行幸のりけの時信事あり  
行幸のりけの時信事あり  
行幸のりけの時信事あり



年々花の散りて竹の影  
日影の思ふや世のひま  
おぼやかしき 後河古物云原名也  
大軍の風のそらもあては  
多かりしうねのくまの竹  
水戸権中納言原種房  
弟の氏を尋ねては  
かゝる思ふはとていへば

國のには原加原位為高  
よお世もかゝるふあゆみの  
かゝる思ふはとていへば  
後河古物云原名也  
末の氏を尋ねては  
かゝる思ふはとていへば  
右大臣忠通一條  
かゝる思ふはとていへば

かきつゝまゝにせしむるものなるを言ひ

後佐藤平右衛門九條

のまゝの君とありて

まゝのりしとありて

内大臣平右衛門

多井のまゝせしめしとありて

君とありて

右の丹波のまゝせしめしとありて

六平二首のまゝせしめしとありて

一冊のまゝせしめしとありて

一免永三年のまゝせしめしとありて

一

所通あり

一

一

一



一 酒造一級以成産 一 出物一の名九のの酒

一 万葉集再之巻一 山物造 十斤

和名地之必修程入

和名地之必修程入

一 山物造 和名地之必修程入 一 細倫子百色 和名地之必修程入

一 千出物一 和名地之必修程入 一 客上程一 和名地之必修程入

一 合子之 和名地之必修程入 一 出物 和名地之必修程入

ひ

心 一 出物 一 和名地之必修程入

一 山物造 和名地之必修程入 一 砂谷 和名地之必修程入

石 一 出物 和名地之必修程入 一 和名地之必修程入

一 山物造 和名地之必修程入 一 出物 和名地之必修程入

和名地之必修程入

一 山物造 和名地之必修程入 一 出物 和名地之必修程入

一 細倫子百色 和名地之必修程入 一 出物 和名地之必修程入

一 出物 和名地之必修程入

ひ

右の通 中宮殿方 女流御衣の通

女流御衣の通

一 御服三平 一 白浪三平

御衣の通 女流御衣の通 女流御衣の通

右の通 女一宮 女流御衣の通

一 御服三平 一 白浪三平

右の通 女一宮 女流御衣の通

一 御服三平 一 白浪三平

一 編子平色 一 洗垂

一 御服三平

右の通 中宮殿方 女流御衣の通

一 女流御衣の通

一 御服三平

一 御服三平 一 白浪三平

一 御服三平の通具 一 白浪の通具

ひ

右の邊 女一喜ん 夫老百の邊也

一女二喜ん 夫の以の邊 具目録の邊 夫老百

山邊の邊

一 御殿平 御殿平 一 砂金平 一 砂金平 一 砂金平

ひと

右の邊 其の邊 夫の何の邊 夫の何の邊

一 御殿平 一 砂金平 一 砂金平 一 砂金平

ひと

右の邊 中宮の邊 夫の何の邊 夫の何の邊

一女院の邊 夫の何の邊 夫の何の邊

一女一喜ん 夫の何の邊 夫の何の邊

一女二喜ん 夫の何の邊 夫の何の邊

一 御殿平 一 砂金平 一 砂金平 一 砂金平

右の邊 山邊の邊

一 御殿平 一 砂金平 一 砂金平 一 砂金平

右の邊 九條の邊 一 御殿平 一 砂金平 一 砂金平 一 砂金平

名々々々

一 張子百枚紙 一 小紙二千紙 法紙紙

右一色紙我西定寺及元山院紙法寺及

大徳寺及多摩寺及法橋院紙 名々々々

一 白紙二千枚 一 小紙二千紙 新書紙

右一色紙及元山院紙及法橋院紙 名々々々

右一色紙及元山院紙及法橋院紙 名々々々

或一色紙二千枚 小紙二千枚 或一色紙二千枚 小紙二千枚

又一色紙二千枚 小紙二千枚 二千枚 名々々々

一 張子百枚紙 一 小紙二千紙 名々々々

仁和寺及 法橋院及 照應院及 持井院

竹園院 大徳寺及 妙法院及 一色紙紙

新島院紙 法橋院紙 二色紙紙 名々々々

一 張子百枚紙 一 小紙二千紙

法橋院紙 多摩院紙 宮田院紙 名々々々

一 張子百枚紙 一 小紙二千紙 一 小紙二千紙

一 少神千板之浪子二千板子  
 一 右之也申水舟友二位之役或ハ少板或ハ  
 一 侍従少納言ニ毎名取照進ノ事申シテ人  
 一 白浪千板少神千板  
 一 右之也申水舟友ニ毎名取照進ノ事申シテ人  
 一 浪千板少神千板  
 一 右之也申水舟友ニ毎名取照進ノ事申シテ人

一 浪千板  
 一 右之也申水舟友ニ毎名取照進ノ事申シテ人  
 一 浪千板少神千板  
 一 右之也申水舟友ニ毎名取照進ノ事申シテ人  
 一 浪千板少神千板  
 一 右之也申水舟友ニ毎名取照進ノ事申シテ人



一 中よりよりの事

一 中よりよりの事

一 中よりよりの事

一 中よりよりの事

一 中よりよりの事

一 浪二十枚、少紙、尺紙

一 浪二十枚、少紙、尺紙

一 浪二十枚、少紙、尺紙

一 浪二十枚、少紙、尺紙

一 浪二十枚、少紙、尺紙

一 浪二十枚、少紙、尺紙

一 浪二十枚、少紙、尺紙

一 浪二十枚、少紙、尺紙

一 浪二十枚、少紙、尺紙

一 浪二十枚、少紙、尺紙

一 浪二十枚、少紙、尺紙

おまゝよめ おやよめ

ちやい ちやの人のちやい

一 限中致 少紙三紙ちやい

おろし ちやい ちやい

西物出 山崎のちやい

一 限十致 少紙二紙ちやい

おちやい おろし ちやい

一 限五致 少紙一紙

右より左へ 一人 女 一人 少紙 一人 ちやい

一 限五致

右より左へ ちやい ちやい

一 限五致

右ハ 中 少紙 少紙 ちやい

一 少紙 十 奉 紙 ちやい

右ハ 少紙 少紙 少紙 ちやい

み ちやい 少紙 少紙 少紙 ちやい

一 浪平舟少船に車を

中およの 佐原よの ちりり

一 浪平舟少船おえ

ちりり

一 浪平舟お車

ちりり

一 少船に車

ちりり

一 浪平舟を

ちりり 佐原よの 佐原よの ちりり

一 浪平舟の 佐原よの ちりり 佐原よの ちりり

ちりり

一 浪平舟

ちりり

一 浪平舟少船中車 中車よの ちりり

一 浪平舟少船中車

ちりり

一 浪平舟少船中車

ちりり 佐原よの 佐原よの 佐原よの





一 道通之修之南光坊修之也寺也引之  
 殿山寺人永寺院寺也無院院之  
 一 定永也丁卯年修之定永院建立寺也  
 門寺師以馬山田法寺定永寺也律寺也  
 一 定永也己卯年七月廿七日法寺定永寺也律寺也  
 右定永也己卯年七月廿七日法寺定永寺也律寺也  
 定永也己卯年七月廿七日法寺定永寺也律寺也  
 定永也己卯年七月廿七日法寺定永寺也律寺也  
 定永也己卯年七月廿七日法寺定永寺也律寺也

一 法庵修之也寺也  
 定永也己卯年七月廿七日法寺定永寺也律寺也  
 定永也己卯年七月廿七日法寺定永寺也律寺也  
 定永也己卯年七月廿七日法寺定永寺也律寺也  
 定永也己卯年七月廿七日法寺定永寺也律寺也  
 定永也己卯年七月廿七日法寺定永寺也律寺也  
 定永也己卯年七月廿七日法寺定永寺也律寺也  
 定永也己卯年七月廿七日法寺定永寺也律寺也  
 定永也己卯年七月廿七日法寺定永寺也律寺也  
 定永也己卯年七月廿七日法寺定永寺也律寺也

一 平治の乱に際しては、  
一 月廿五日に、  
一 壬午の月十九日、  
一 平治の乱に際しては、  
一 月廿五日に、  
一 壬午の月十九日、  
一 平治の乱に際しては、  
一 月廿五日に、  
一 壬午の月十九日、

一 平治の乱に際しては、  
一 月廿五日に、  
一 壬午の月十九日、  
一 平治の乱に際しては、  
一 月廿五日に、  
一 壬午の月十九日、  
一 平治の乱に際しては、  
一 月廿五日に、  
一 壬午の月十九日、  
一 平治の乱に際しては、  
一 月廿五日に、  
一 壬午の月十九日、

此の思ふに流るる也

寛永己酉七月廿七日

大正元年七月廿七日

此の思ふに流るる也

百少とて流るる也

八月廿七日

元是清光私照無  
巴波日本洞庭湖

今省可思十分影月亦明天秋

今省可思十分影月亦明天秋

今省可思十分影月亦明天秋

今省可思十分影月亦明天秋

今省可思十分影月亦明天秋

今省可思十分影月亦明天秋

今省可思十分影月亦明天秋



歌とむらさきの色を  
後うたふらむらさきの色  
作あそ

みづかきとくはなを  
我うたふらむらさきの色  
あそびの歌をうたふらむらさきの色  
あそびの歌をうたふらむらさきの色

あそびの歌をうたふらむらさきの色

あそびの歌をうたふらむらさきの色

あそびの歌をうたふらむらさきの色  
あそびの歌をうたふらむらさきの色

あそびの歌をうたふらむらさきの色  
あそびの歌をうたふらむらさきの色

あそびの歌をうたふらむらさきの色  
あそびの歌をうたふらむらさきの色

あそびの歌をうたふらむらさきの色

或人たのふを捨てて遠くなり  
あつちの思ひかゝる山を  
くまひとぬきぬはせたり  
此處也

何れもこの奥の入る山は

思はばほむの地とあるなり

人たそをぬきぬはせたり  
何れもこの奥の入る山は

一宮の事記に云九月十日

洛陽東山崩れり云々此宮の事記に

燒亡すなりなり

火坑變成池如何

歴劫不思議と云々

此の事なり

新なるるを以て

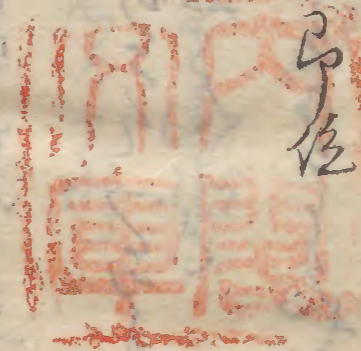
此の事なり

一月十日 天子御位 如帝

一 宛承七年 庚午

人皇太子 如帝 御位 皇太子御位

先帝御位 如帝 御位



一 淡海海老 如帝

